

# 新潟県新潟市五十嵐三の町方言 の比喩語について

大橋 勝男

はじめに

1. 調査対象地：新潟市は、新潟県の沿岸中央やや北寄りに位置し、五十嵐三の町は新潟市の西域にあって日本海に面している。農業を主とし、西瓜・大根を主に作る田は、従である。最近兼業者も多くなりつつある。都心には、バス・列車の便がある。660世帯ほどで、人口はおよそ2200人、人口は横這いかやや増える傾向にある。
2. 調査年月日時：1992年12月11日 午後1時30分～3時30分
3. 話者：清水ミネ 大正15年9月8日生（66歳）
4. 調査者・調査場所：大橋 勝男、話者宅の居間
5. 調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。終始うちとけた雰囲気ではあったが、比喩語の思い出しには困難があったようである。

## I 《自然現象》

1. 日照り雨 テンキアメ
2. 入道雲  
ニュードーグモ（入道雲） 入道雲 <名> 全  
雲の姿・感じを入道雲にたとえている。
3. 旋風  
タツマキ（竜巻き） 旋風 <名> 全  
風の渦巻く様子を、竜が身をくねらせて回りながら天に向かう様子にたとえている
4. 霜柱  
シモバシラ（霜柱） 霜柱 <名> 全  
地面に氷の結晶が立ち上がって筋状になっている様子を、霜の柱にたとえている。
5. つらら  
カネッコリ（金氷） つらら <名> 全  
つららの固い様子を金属にたとえている。  
その他ツララ・ツズラ
6. 北斗七星  
ホクトシチセー（北斗七星） 北斗七星 <名> 全  
星の並びの形を柄杓にたとえている。
7. 昴 物が分からない。
8. 流れ星  
ナガレボシ（流れ星） 流れ星 <名> 全

星の移動の様子を、流れると見たたとえている。

## II 《動物》

9. かわはぎ カワハギ・コーグリ
10. ひらめ ヒラメ
11. ひきがえる ガマガエル
12. 青大将  
アオダイショー (青大将) 青大将 <名> 全  
緑色で堂々とした感じを大将にたとえたか。
13. とかげ トカゲ
14. かまきり  
カマキリ (かまきり) かまきり <名> 全  
鎌状の前肢を振り回すことを、鎌で切ることにたとえたか。
15. みずすまし 物がわからない。
16. きつつき 物がわからない。
17. せきれい エンコ
18. ふくろう フクロウ

## II 《植物》

19. 馬鈴薯 ジャガイモ・ニドイモ
20. どうもろこし コクレン・トーキビ
21. いんげん豆  
ドジョーエンゲン いんげん豆 <名> 全  
莖状に這い上がった、その莖に鞘が長く垂れ下がったのを、どじょうにたとえている。
22. そら豆 サンノキマメ
23. 木くらげ  
キクラゲ (木くらげ) 木くらげ <名> 全  
様子をくらげにたとえたか。
24. げんのしょうこ ゲンノショーコ
25. どくだみ ドクダミ
26. いたどり 物が分からない。
27. からすうり カラスウリ
28. すみれ スミレ
29. 春蘭 アヤメ
30. 母子草 物が分からない。
31. ねむの木 名前が分からない。

IV 《性向》

32. 熱しやすく冷めやすい人 該当語を思い出さない。
33. あわてん坊 キモミショー・ソソッカシー
34. 動作の鈍い人 ノロマ
35. 嘘つき ウソコキ
36. ほらふき  
オーブロシキ (大風呂敷) ほらふき <名> 全  
大きく広げて言うことを大きな風呂敷にたとえている。  
その他 オーゲサ
37. おしゃべり サベクッチョ
38. 冗談言い サベクッチョ・トンチガイ
39. 口先だけの人 特に言葉がない。 クチダケ
40. とんちんかんなことを言う人 トンチンカン
41. のらりくらり煮えきらない人 イタリ コイタリスル ヒト (言ったり止めたりする人)
42. 怒りっぽい人 タンキ
43. 気むらな人  
オテンキヤ (お天気屋) 気むらな人 <名> 全  
性質の変わりやすいことを天候の変わりやすいことにたとえている。
44. 泣き虫 ヨワムシ
45. おてんば娘  
トビアガリ (跳び上がり) <名> 中・老年層 古  
おてんば娘の活発な様子を跳び上がる動作にたとえている。
46. 腕白坊主 キカネ・ランボー・サワギザカリ
47. 出しゃばり デジャバリ
48. どこへでも顔を出す人 デズキ
49. 家にもって外出しない人 ウチメ (控え目)
50. 小心者 キガ チーサイ・ヒカエメ
51. 内弁慶 ウチハバカリノ ドースンバリ (家ではいばっているのに、外では話もできない)
52. 人づきあいをしない人、社交性のない人 ネツツイ (儉約家)・デブショー
53. 妻に対して頭の上がらない男 イクジガネ・オトナシー
54. けち  
ニギリヤ (握り屋) けち <名> 中・老年層 古  
物惜しみ・出し渋りすることを、握って離さないことにたとえている。  
その他 ケチ
55. 欲張り ヨクバリ

V 《食生活》

56. 大食漢 タイシヨクカ・オーグイ

57. ぼたもち ボタモチ (これは、「トナリシラズニ デキル〈隣知らずにできる〉」  
という。)

58. 砂糖味が薄い

スッコロカブリシテ サトヤノ メオ トツタンダ (頬被りをして砂糖屋の前を通  
ったのだ) 砂糖味が薄い <句> 老年層 古

頬被りをして砂糖屋の前を通ったのでは、砂糖の甘さなどが感じられない。

その他 ソッケガネ・チット モノタラン

59. 塩味が薄い

ミソバチニ ミソガ デテ ネカッタ ナ (味噌鉢に味噌が出てなかったな) 塩  
味が薄い <句> 老年層 古

こう比喩的に言うことにより間接的に味噌味の薄いことを言い表す。

その他 ソッケガネ・ソッベガネ

60. 大酒飲み

オーガメ (大瓶) 大酒飲み <名> 老年層 古

大きい瓶には沢山の酒や物が入るので、こうたとえている。(大亀の可能性も。)

その他 オーザケノミ

61. 酒に酔ってくだをまく クダ マク・サカグセガ ワリー・グータラベン ナッタ  
(訳が分からなくなった)・グタグタユ

62. 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま

キントキノヨラ (金時のようだ) 酒に酔って顔が赤くなったさま <句> 老年  
層 古

酒に酔った赤い顔の様子を、そのような顔の人である金時にたとえている。

その他 アカクナル

VI 《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま アカクナル・ウチメ・ショーシガリ (恥ず  
かしがり)

64. どしゃ降りの雨

タキノヨーニ フル (滝のように降る) 雨がどしゃ降りに降る <句> 全 盛  
激しく沢山降る雨の様子を滝の水の落ちる様にととえている。

その他 アラサメ (荒雨)・ドシャブリ

65. ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま

カワカラ アガッタヨラ (川から上がったようだ) ずぶ濡れ・びしょ濡れになる  
そのさま <句> 老年層 古

ずぶ濡れ・びしょ濡れの様子を、川から上がったばかりでそのようになっている様  
子にととえている。

今はビショヌレ

66. 服装がだらしないさま ソソビラキ (裾開き) ・ダラシガ ネー
67. 髭が伸び放題なさま ブショー
68. 厚化粧をしている人 ダテコキ (おしゃれ)
69. 背丈の高い人 セッタカ
70. 出びたい デブタエ (出額)
71. 汗がひたいから流れ落ちる フキタテノ ナラナイホド アセガ デル (拭きたてのならないほど汗が出る)
72. 目を丸くする タマゲル
73. 口をとがらす  
エンマサマノ カオオ スル (閻魔様の顔をする) 口をとがらす <句> 老年層 稀 古  
口をとがらした顔付きを閻魔様の顔にたとえている。  
その他、ツノッテ ハナシシル (力を入れて声を出して話す)
74. 焦げ臭いにおい コゲツケクッセ・ヒナクサイ (繊維などの焦げるにおい)
75. 遠廻り (をやる)  
チベノ ツル (鍋の蔓) 遠廻り (をやる) <句> 老年層 古  
遠廻り (をやる) ことを、グルとまわっている鍋のどつてにたとえている。
76. 末っ子  
ツルタグリ (蔓手繰り) 末っ子 <名> 老年層 古  
最後の子のことを、西瓜やかぼちゃなどの蔓を手繰ってやっと見付かる、最後になったうらなりの実にたとえている。
77. 一生懸命頑張る ドリョクスル

## VII その他

78. アロエ  
イシャイラズ (医者要らず) アロエのこと 《名》 老年層 古  
アロエは薬効があるので、医者が必要ないと、たとえた。
79. かんざし  
ベッター (蝶) かんざし・リボン 《名》 老年層 古  
かんざしの形が蝶に似ているので、蝶にたとえたか。(ただし、当地域で、蝶のことをベッターと言っているわけではない。)
- 80 見送り酒  
ヒツタクリザケ (引ったくり酒) 客人をもてなして、帰り際に玄関で出す茶碗一杯盛り切りの酒 《名》 老年層 古  
既に正式にはおよばれをしているのに、さらに帰り際、いよいよ玄関を出る時によばれる酒なので、酒飲みの者は、これをとても喜んだ。送り出す人の、好意の印であり、当地方の習慣であった。それを、見送られる立場から見立てて、「おまけを

引ったくる」とたとえたのである。

8 1. 夢中になる

ノホセル (のほせる) 仕事などに夢中になる、熱中する 《動》 老年層 古  
夢中になることを、のほせる様子にたとえている。

8 2. 円満

マルク オサマル (丸く治まる) 家の中などが、円満に穏やかに治まる 《動》  
老年層 古

いい具合にということ、丸い形にたとえている。

8 3. 前以て準備をよくする

ヨイノ ウチニ カマ トグ (宵のうちに鎌を研いでおく) 前以て準備をよくする 《句》 老年層 古

「ヨイノ ウチニ カマ トイドカンバ アシタ シゴトン ナラン。(宵の内に鎌を研いておかなければ、明日仕事にならない。)」のように言う。準備をよくすることを、前の晩に鎌を研ぐという具体的な生活行為にたとえている。

8 4. 明日に伸ばすな

ヨイニ カケタ フンドシ アテニ ナラン (宵に締めたふんどしは、次の朝どうなっているか当てにならない) 《句》 老年層 古

明日に伸ばすな、ということ、ふんどしが次の朝どうなっているか分からないという、生活的な極めて具体的素材を見だし、それを比喩に当てている。あてにならないという、理由の方だけを指摘し、それによって、どうせよという部分を暗示する言い方になっている。

8 5. あいの風は昼間だけ吹くという性格をもっている

フーフゲンカト アイノ カゼワ ヨル ヤム (夫婦喧嘩とあいの風は、夜にはやむ) あいの風は昼間だけ吹くという性格をもっている 《句》 老年層 古  
あいの風の吹く性質を言うのに、それと通じる現象を思いもかけない夫婦喧嘩に求め、たとえて面白く言っている。

総括

1. 句的なものに、地域的特色がある。
2. 比喩の素材が、極めて生活的である。
3. 比喩の素材に、奇抜を好むようなところもある。
4. 時に、比喩を楽しむというところがある。
5. 比喩語に地方生活者の生活心情・思想がにじみ出ている。
6. 当方言の場合、当調査票の領野に関しては、さほど比喩表現が盛んとは見受けられない。
7. 存外、当地域で独自に作られたと思われる比喩語は少ない。多くは、共通語的であったり、他地方からの導入的なものに見受けられる。

(おおはし かつお 新潟大学教育学部)